五領地区連合
自治会だより

第36号
平成30年3月25日
発行所
五領地区連合自治会

豊かな自然と歴史が宿るまち
4月10日から「五領地区」を放映

四月十日からJ：COMケーブルテレビ（地デジ11チャンネル）の高槻市広報番組「情報BOXワイドたかつき」のコーナー「高槻見聞録」で五領地区がいよいよ紹介されます。

この番組は、コミュニティ市民会議、J：COM、高槻市が協働して企画され、製作されるもので、濱田 剛史市長と女性リポーターが三十二地区コミュニティを巡り、和やかに各地区の歴史遺産や地区の特色あるスポットを訪れ、各地区の魅力を伝えるもので、平成二十八年十月から各地区を順次紹介しており、五領地区は、何時からですかとの声もありました。

昨年の十二月二十七日に連合自治会役員が、コミュニティ市民会議まちづくり部会長、J：COMディレクター、高槻市営業広報室及びコミュニティ推進室と台本作成に向けた打ち合わせを行い、二月二十六日に撮影が無事完了しました。

「豊かな自然と歴史が宿るまち」と題して、濱田市長が阪急上牧駅から地区内の河川敷を巡り、豊かな上牧・鵜殿のヨシ原の自然を巡ります。ヨシ原は、鳥獣保護区に指定されており、多くの野鳥が生息し、バードウォッチングのメッカとなっており、そんな様子も見聞されます。古くからヨシが管楽器の篳篥（ひちりき）リードとして宮内庁・伊勢神宮に献上されており、実物を手にしての語らい。鵜殿のヨシ原保存会のヨシズ編みや小学校での体験授業等も紹介されます。

なお、放映は四月十日から十九日までの十日間①九時、②十二時十五分、③二十二時十五分の一日三回（三十分番組内の約十分程度）ですので、ぜひご覧ください。J：COMがご覧になれない世帯は、インターネットを通じて、高槻市のホームページでご覧になれます。

また、連合自治会でDVDを保有していますので、地区の多くの皆さんに「五領の魅力」を再発見いただけるよう、機会を捉え、地区のイベント等でこの映像を紹介していきます。

ケーブルテレビ「高槻見聞録」

ひちりきの説明を受ける

五領にJR新駅と新市街地
市が調査費計上し可能性を検討

五領地区は、この三月十八日で、新名神が神戸まで開通したことにより、交通至便の地域として、大きく注目されています。今後は、枚方に向けての工事が進んでいくことになります。

ところで、高槻市の三月議会で、JR新駅と新市街地形成の可能性について検討されているとの話が、市長の所信表明で発表され、調査費が予算計上されました。場所については、檜尾川以東となっており、今後の動きが注目されます。高槻市施行七十五周年の本年も、地域の動きに目の離せない年になりそうです。

平成29年度の行事

平成二十九年度連合自治会の主な行事を紹介します。

定期総会

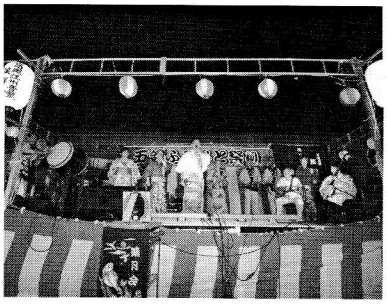
昨年五月十四日「第三十三回五領地区連合自治会定期総会」が開催され、平成二十八年度の事業報告、同決算報告並びに監査報告が行われました。

規約の一部改正の後、役員改選では、会長に上田博夫、副会長に清田芳博、谷川秀次、長谷川良隆、事務局長に柳田元、会計に北浦寿の各氏が選任（いずれも新任）され、顧問に高須賀嘉章氏が就任しました。

その後、平成二十九年度の事業計画案、同予算案が提案。産業廃棄物焼却炉建設反対活動の推進、防災活動の強化、防犯活動、環境美化活動の推進、五領ふるさと祭り、健康づくり活動、文化展といった計画を審議し、採択しました。

五領ふるさと祭り

七月二十二日「第二十一回五領ふるさと祭り」が、五領小学校グラウンドで行われました。今年度のテーマは、「緑豊かな五領のまちへ　あふれる笑顔！つながる心！」でした。



トワイライト

ステージプログラム

・第一部

①オープニング

②金光大阪高校

軽音楽同好会、ダンス部・チアリーダー部

③大ビンゴゲーム

④江州音頭（小学校児童）

⑤南中ソーラン（和朗園）

⑥沖縄三線

⑦フラダンス

⑧和太鼓（天晴座）

・第二部

盆踊り

靖月会、高槻江州音頭保存会のメンバーの音頭にのって五領ならではの盆踊り。

また、模擬店も、賑わいを見せていました。

濱田市長、教育長、市民会議議長、社会福祉協議会の会長等が来場、代表から挨拶がありました。

健康スポーツフォーラム

十一月二十六日、上牧小学校グラウンドと体育館で「健康スポーツフォーラム」を開催しました。

グランドゴルフ、ペタビンゴ、輪投げなどの競技があり、体育館内では、「体組成計」で身体の状態を確認。健康チェック・アドバイスも行われました。

また、出前健康講座も企画され、講座テーマは「足から健康を考える」で、講師にシューフィッターの大持進一氏を迎え、約六十人が参加して行いました。実年齢測定器の用意や、地区担当保健師、健康推進リーダーの取り組みで、健康を維持するための楽しい一日となりました。

五領文化展

第二十八回「五領文化展」（五領公民館との共催）が、三月三日、四日にわたり、五領公民館で開催され、濱田市長、教育長、市民会議議長など、多くの観賞者でにぎわいました。

今回の文化展は、ステージとギャラリーの二部構成となっています。

★演舞朗々ライブステージ

大正琴、箏、尺八、詩吟、民謡、太鼓、カラオケ、コーラス、ハンドベル、フラダンス、音楽劇等の内容。

☆風雅彩々ぁーとギャラリー

絵画、水墨画、写真、陶芸、手芸、パッチワーク、生け花、五領中、五領・上牧小、五領・上牧幼稚園などで、今回も昨年同様の出品がありました。

五領地区連合自治会
会長　**上田　博夫**

今年度より五領地区連合自治会長を担当させて頂くことになりました、上牧町に住いします上田博夫と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

役員が総入れ替えとなり、定期総会から二か月後に迫っている〝五領ふるさと祭り〟が例年通り開催出来るのかと多くの方から心配の声を頂きました。役員力を合わせ、また、多くの人からご支援を頂いた結果、天気にも恵まれ大盛況のうちに終えることが出来ました。役員が一つにまとまった瞬間でもありました。

新メンバーで五領の価値を高めよう

新しい取組みも出来ず例年通り行うことが精一杯の一年でしたが、規約改正を行い、任期は一年で最長でも四年で交代としました。絶えず新しい考えを持った人が任にあたり組織を活性化することが目的です。

この五領地区は連合自治会とその他の組織が縦割りになっておりコミュニティとしての一体化を進めないと、地区全体として情報の共有や発信をする術がありません。防災の視点でも大いに問題です。

次年度も、例年の行事をこなしつつ、この課題に取り組むべきと思っています。

地区の団体の組織活動やボランティア活動などに多くの方が参加、目を向けて下さることがこの〝五領地区〟の価値を高めることにつながると信じています。

「住みよいまち、心地よいまち、活気に溢れたまち」とより感じられる五領地区にして参りましょう。

防災・減災フォーラム

一月二十日(土)五領公民館二階大集会室で、五領地区「防災・減災フォーラム」を開催しました。共催する五領公民館の曽我部浩史館長の進行のもと、上田博夫同地区連合自治会長から参加者へ「巨大地震発生(震度六強)、天気は晴れ、気温は五度、電気・ガス・水道・公共交通機関ストップ、二～三割の家屋の倒壊。この状況下を想定しながら皆さんと家族が何をすべきか、何ができるか等を想定しながら聴いてください。」との説明で開会。

来賓の高須賀嘉章コミュニティ市民会議議長(同地区連合自治会顧問)から「市民会議が目標を掲げてきた、高槻市内全域を網羅する三十二地区コミュニティで地区防災会の設置を昨年度に完了できた。今後とも、五領地区でも防災会が基盤となって、避難所運営マニュアルや地区版ハザードマップの作成等の防災活動が活発に展開されるよう期待する」との挨拶がありました。

基調講演

フォーラムは、二部構成で、第一部はNPO神戸の絆・理事(元神戸市消防局予防部長)の松山雅洋氏が「阪神・淡路大震災の事例から建物倒壊、火災の対応及び避難所運営について」と題して基調講演。松山氏は、同震災時に消防士として救助にあたった体験や惨状を当時の写真を用いて紹介。阪神淡路大震災の被害は死者六四三四人、負傷者四三七九二人、建物倒壊は、全壊及び半壊棟数二四万九一八〇棟、神戸市内の火災一七五件全焼六九六五棟、半焼八〇棟、延焼損面積八一九・一〇八㎡は、救助活動では、地震後に救助を必要とした人は、閉じ込め十六万四千人(自力脱出十二万九千人、被救助者三万五千人)、そして、市民による救助は、二万七千百人、七七・五%。救助の基本として、安全管理、資機材、応急手当の三点が挙げられました。また、なぜ大火となったのか、もし初期消火が行われていたらといった観点から火災の説明がありました。

パネルディスカッション

災害に備えた地域の取り組み
地元の住民、企業、行政が意見

第二部は、上田会長の司会で、「災害に備え、地域の住民・コミュニティ・企業は何を準備し、どう取り組めば良いのか」をテーマにパネルディスカッションを実施。

パネリストには、松山氏をはじめ地元企業のイオン高槻店、ニチレイフーズ関西工場、そして行政から危機管理室、五領方面隊、コミュニティ推進室、中消防署五領出張所の方々が一堂に介し、「企業や行政が災害時にできること」、「地震発生時の皆さんの初動体制」、「災害に対する準備や発生時に注意すること」等を中心に、それぞれの視点から発表がありました。

当日出席した一〇五名の参加者は、真剣なまなざしで聞き入り、フォーラムの最後には、活発な質疑応答や意見交換もあり、大地震から得た教訓、地域共助の大切さと避難所運営の課題を確認しました。

なお、当日参加された方に、簡単なアンケートをお願いしました。アンケート結果の概要は、別表のとおりです。

避難所については、避難生活で命を守るため心がけること等の講演がありました。

＜アンケート結果の概要＞

性別	男性	53.8%	女性	46.3%
年代	10代	0%	50代	10.0%
	20代	1.3%	60代	28.8%
	30代	6.3%	70代	31.3%
	40代	17.5%	80代	5.0%
住所	地域内	92.5%	地域外	7.5%
講座情報ソース	広報紙	17.5%	知人から	42.5%
	チラシ	20.2%		
	ポスター	8.8%	その他	26.3%
評価	とてもよかった	60.0%	ふつう	5.0%
	よかった	31.3%	よくなかった	1.3%
			無回答	2.5%

コメント：五領地区に特化した内容のほうがよい。資料が見にくかった。救命救護・災害時の具体策等。

このページでは連合自治会が参画する団体の行事を紹介しています。

防犯活動

平成二十九年度の防犯活動を紹介します。

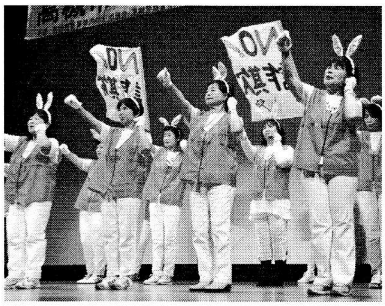
▼防犯委員研修

九月二十六日、防犯委員研修会が、高槻市現代劇場で行われ奈良女子大学・岡本英生教授から「災害後の犯罪減少と防止活動について」と題し講演があり代表が参加しました。

内容は、①なぜ災害後は犯罪が増えるのか②災害後の犯罪の内容③災害後の犯罪対策について④被災者の心理と防犯、の四つのテーマで展開され、まとめとして様々な角度から災害後の犯罪を分析する必要があるとのことでした。

▼全国地域安全運動の実施

十月十三日「全国地域安全運動高槻市・島本町防犯大会」が〝みんなで力をあわせて安全・安心まちづくり〟をメインスローガンに高槻市生涯学習センターで行われ、防犯委員の代表が参加しました。



大会では、刑法犯罪は減少しているものの、身近な犯罪である子、ひったくりや、子ども、女性を狙った犯罪は、増加していると報告がありました。また、結成十五年を迎えた女性防犯部会「うのはな」が、野うさぎの衣装で、「ノーサギ(詐欺)音頭」を披露し喜ばれました。

▼歳末防犯警戒

各自治会を拠点に、十二月二十九日、三十日を中心に、歳末防犯警戒が実施されました。中心拠点の五領公民館には、二十九日、高槻市、高槻警察署、防犯協議役員の激励の訪問がありました。

親子カーニバル

十一月四日、清々しい秋晴れのもと、「第三十一回親子カーニバル」が五領小学校で開催されました。

当日は飲食コーナーやゲーム体験コーナーなどたくさんのブースが出展され、連合自治会からも〝綿菓子〟で参加しました。毎年恒例の青空コンサートでは、中学生の司会のもと、吹奏楽やダンスや三校対抗先生合戦などで大いに盛り上がりました。この親子カーニバルは地域と学校と保護者の交流を深める良い機会となっています。

ホワイトコンサート

「第十六回ホワイトコンサート」が、十二月二十三日、金光大阪中学校高等学校体育館で盛大に開催されました。小学生の元気いっぱいの発表や、高校生の迫力あるダンス、また、中学生・高校生・fanfaria musicaによる素晴らしい演奏など、会場全体が暖かい気持ちで包まれました。

「音でつながる五領の絆―きずな―」をテーマに、今回が十六回目となりますが、まさに地域をつなぐ大事なイベントとなっています。

特定検診

高槻市では、四十歳～七十四歳で、国民健康保険化入社の方を対象に地区を巡回して実施していますが、五領地区では、六月十九日に実施され、受診者は、百名でした。

平成二十八年の特定検診受信者は、百十一名であり、前年に比べ十一名の減でした。検診内容は、問診、身体計測、血圧測定、検尿、血液検査、心電図検査、眼底検査でした。

血圧測定や尿検査、血液検査を無料で受けることができ、その結果、メタボでなくても糖尿病や脳卒中にかかる可能性があることも分かることがあることから、市では、年に一回は、当該検診を受診するよう進めています。

日赤の活動

▼献血活動に協力

地域献血を九月十六日、金光大阪中学校・高等学校及び十一月二十五日、イオン高槻店に献血車を迎え献血推進活動に協力しました。そして、阪急高槻市駅ミング前などで、街頭広報として、ティシュを配布して啓発に当たりました。献血に皆様のご協力をお願いします。

▼防災講演会に参加

本年一月二十八日、関西大学ミューズキャンパスで行われた防災講演会に参加しました。「高槻だからできる安全　安心なまちづくり」をテーマに、有馬高槻断層帯地震や、南海トラフ巨大地震など、私たちが過去に経験したことのないような巨大災害の発生がいまや現実味を帯びた脅威として認識されています。

しかし、恐れるという意識だけで巨大災害による犠牲を減らすことは容易ではありません。地域を魅力的にしたい。防災は専門ではないが、自分たちの強みを生かして、新たに防災事業を始めたいなど、前向きな、意識を原動力とした防災、減災の可能性を考えてみます。

▼社資募集の報告

本年度も各自治会のご協力により六十四万一千九百七十三円集まりました。有り難うございます。今後もよろしくお願いします。

(高槻市赤十字奉仕団五領地区連合分団長　薗田廸治)